



今原 ゆかり 議員

### 子どもの予防接種について

**問** 子どもの定期予防接種は、B型肝炎、ヒブ感染症、小児の肺炎球菌感染症を始め、13疾患の発症や流行を予防するため、感染症にかかりやすい年齢をもとに接種のタイミングが決めら

れている。最近では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、予防接種を控える傾向がみられている。本市のコロナ禍における接種状況は。

**答** 4月の接種数は令和元年度が993件、令和2年度は793件、5月の接種数は令和元年度が949件、令和2年度は777件、6月の接種数は令和元年度が813件、令和2年度は872件。今年の4月と5月は2割ほど減少しているが、6月からは昨年並みとなっている。

**問** 予防接種全体の実施件数の減少がみられるが、今後の対応策は。

**答** ホームページや広報、子育て支援ネットワークでの情報発信も行い、予防接種の先送りや

接種忘れがないよう周知を図っている。今後は小学校を通し、勧奨チラシを配布していく予定。

### 産前産後ケアについて

**問** マイ保健師の相談支援の他にも産前のサポートとして、マタニティーサロンや両親学級を実施しているが、コロナ禍の影響は。

**答** 妊婦向けサロンである「ままプチさろん」や「パパママ教室」は、3月から6月は実施を中止し、7月から再開している。マイ保健師による相談支援は継続して実施し、感染への不安に合わせて、家庭訪問や電話での対応をした。

**問** 現在の産後ケア事業の利用状況は。

**答** 宿泊入院での八千代病院、碧助産院の2か所で実施。平成30年度は3件、延べ8日。令和元年度は3件、延べ15日の利用。

**問** 今年度から始めた産後デイサービス事業の内容は。

**答** 令和2年4月から、岡村産婦人科と碧助産院が日帰り型の産後ケア事業を開始。家事やきょうだい児の育児などの心配が少なくなり、自宅を夜間空けることが難しい母親にとっては、家庭生活を大きく変えることなく利用できる。



内藤 とし子 議員

### 新型コロナウイルス感染拡大から市民生活を守れ

**問** 感染拡大防止のために、防疫目的の大規模で網羅的なPCR検査を実施することを求める。刈谷市は9月1日行政検査を20の医療機関で行うと決めたと伺っている。高浜市はどうするのか。

新型コロナウイルス感染症対策会議では、ファクスに本市は「休日診療所」が無いため、「旧保健センターの活用を考える」と返事すると書かれている。それから半年がたつが保健センターはどのようになっているのか。

**答** コロナ対策は市の区域をまたいで行い、市単独で検査はしない。保健センターの話は3月時点の話で、国も対策本部で1日20万件検査を行うとっており、大きく状況が変わっている。

**問** インフルエンザが今冬コロナと同時流行するといわれている。高齢者は1,000円でインフルエンザワクチンを打てるが、子どもは2回打たなければならない、1回で3,000円以上もする

し、子どもが2人3人いる世帯は負担が大きいものがある。子どものワクチン接種に補助を出すよう求める。

**答** 今のところその考えはない。

**問** 妊産婦の分娩前検査（PCR検査）に県は2万円助成することを予算化した。不足分を市が出すよう求める。

**答** 今のところその考えはない。

**問** 医療関係者、介護、福祉施設の従事者にPCR検査をするよう勧めることが重要と考えるがどうか。

**答** 国からの要請に基づき、県が実施するものとする。

**問** 市民のいのちと暮らしを守るため、財政調整基金を取り崩しても、新型コロナの蔓延を防ぐという考えは。

**答** まず、市民の生活を守っていく。地域経済を支えていく。こういったところに今後対応していくことになる。

